

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立恵那高等学校 事業実施報告書③

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 II 】
2 実施対象者	①ボランティア推進委員・生活委員 ②陸上競技部・サッカー部・バレーボール部・ボート部 ③陸上競技部 ④ボート部
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ○その他（委員会、部活動主体による美化活動） (2) 地域における活動 ①イベント名 （えなRUN 伴+ (PLUS) 2017） （第64回中山道東濃駅伝競走大会） ②その他 （東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地恵那市誘致協議会への協力）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下東京2020大会）に主体的・自発的に参画し、何らかの形で大会を支えていこうというボランティアマインドの基礎を醸成する。</li> <li>・社会に貢献しようとする意欲をもち、温かいおもてなしができる生徒の育成を図る。</li> </ul>
5 取組内容	①委員会による美化活動 ○ボランティア推進委員会、生活委員会による学校周辺地域の清掃活動 ＊地域の人たちと協調し共存できる共助・共生社会の担い手となるよう、校外清掃など地域の美化に努める体験的な活動を取り入れた。恵那市を訪れた人がまた来たいと思ってもらえる綺麗な街づくりに、自分たちも関わることの意義を実感するよい機会となった。 ②部活動による美化活動 ○陸上競技部・サッカー部・バレーボール部による恵那駅から学校までの通学路清掃活動



\*スポーツを「する(体験・交流)」という視点だけでなく、「支える」という視点で捉えさせるため、通学路の清掃活動を行った。大会運営等陰で大会を支える人たちの思いを知る絶好の機会となった。多くの部が賛同し、ボランティアの輪が広がっていった。

○ボート部による恵那峡の清掃活動  
(花火大会後片付け)



\*日頃ボート部の練習で使わせていただいている恵那峡の美化活動を行った。恵那市観光協会に働きかけ、ボート部員が7月末開催の恵那峡花火大会の後片付けに協力した。恵那峡全域のゴミ拾いやテントの撤収、各種看板片付け、遊歩道沿いの提灯片付けを行った。

③部活動によるボランティアイベントや競技会への協力

○陸上競技部員による地元開催ボランティアイベントへの参加

\*10月に恵那市で開催された「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」をめざす、みんなでこころをつなぐまちづくりイベント「えなRUN伴+ (PLUS) 2017」に陸上競技部員が参加した。ランナーとして認知症の方に伴走したり、交流イベント会場の手伝い等を行った。

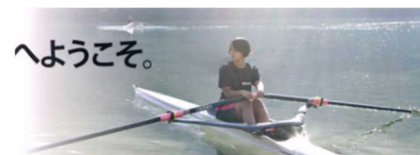
○陸上競技部員による地元開催駅伝競走大会への補助員活動

\*毎年11月に地元で開催される「中山道東濃駅伝競走大会」に補助員として陸上競技部員が参加した。役員の方の指導を仰ぎながら、中継所の選手の呼び出しや記録記入、掃除等の業務を行った。

④東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地恵那市誘致協議会への協力

○国内外向けパンフレットの写真撮影等の広報活動、キャンプ整備に関する意見交流

\*本校ボート部員がパンフレットに使用する写真のモデルを務めたり、ボート部員が実際にキャンプ地を使用して感じたコースや水面の情報等、生徒の生の声をキャンプ地整備にかかわる意見交流会で提供するなど協力した。



6 主な成果

・今回の活動に際して、恵那市役所の職員や最寄駅の駅員から感謝の言葉をかけていただき、生徒は地域の方々の温かさを感じた。その経験が生徒の琴線に触れ、人のためになる喜びを多くの生徒が実感することができた。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ボランティアを通して、社会に貢献しようとする意欲をもち、温かいおもてなしができた。来る東京2020大会に向けたボランティアマインドにつながる大きな一歩になるという成果を得た。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ボランティア活動を進めるにあたり特に留意したポイントは、「きっかけづくり」である。教員からの働きかけがきっかけとなるスタンスではなく、委員会や部活動の生徒の行動がきっかけとなり、生徒や教員が共感・賛同し、自主的・自発的にボランティアに取り組もうとする「流れ」を作ること配慮した。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 社会に貢献しようとする意欲をもち、温かいおもてなしをすることができたが、地域のスポーツ大会や行事等の各種イベントに特定の生徒（陸上競技部）しか参加することができなかった。もっと多くの生徒がスポーツを支える体験ができればよかった。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スポーツ大会等のスポーツイベントに、運営スタッフとして参加する生徒を募り、スポーツを支えることを経験させたい。</li> <li>• 引き続き、清掃活動等の社会貢献を継続していきたい。</li> </ul>